

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	日本における大腿骨近位部骨折の適正治療を目指すグローバルデータベースの作成
研究責任者	日本脆弱性骨折ネットワーク 理事長 松下 隆 当院研究責任者:骨・関節外科 部長 森 諭史
研究実施体制	日本脆弱性骨折ネットワーク
研究期間	2020年1月1日～2024年12月31日
対象者	聖隷浜松病院で治療を行う大腿骨近位部骨折患者
研究の意義・目的	大腿骨近位部骨折は脆弱性骨折の終着駅とも言われ、高齢化の進行する世界的な規模での対策が求められている。Fragility fracture network(FFN)では活動の1つとして大腿骨近位部骨折治療のガイドラインと Audit に基づいたデータベースを作製し、大腿骨近位部骨折治療の改善、進歩への改革を実施している。FFN-Japan では国際比較を念頭に置いて、FFN 共通の Minimum Common Dataset を用いたデータベースを作製して、病院間、地域性、さらに国際的な比較を行い、我が国の治療の特色や課題について検討する。その結果に基づいてガイドラインを反映させた Audit system を提案する。継続的なプロジェクトとして大腿骨近位部骨折の適正治療、二次骨折予防の徹底を実現し、海外での実施モデルを参考に国家的に診療報酬に反映されることを目指す。
研究の方法	受傷時から入院後1年までの追跡調査の実施。(入院時 退院時、入院後30日、90日、365日の調査) データを匿名化して脆弱性骨折ネットワークに毎月報告し、脆弱性骨折ネットワークは参加病院のデータを集計し報告する。 調査項目:患者年齢、居所、受傷場所、日時、骨折側 骨折分類 骨粗鬆症治療の有無、活動性 全身状態、治療法、再入院、再手術の有無、生存状態
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 骨・関節外科 (氏名) 森 諭史 TEL:053-474-2222(代表) 骨・関節外科外来 9:00～17:00 平日